

予習確認プリント

学年：_____ 学籍番号：_____ 名前：_____

- ・日射の遮蔽の際にはどのような点に気をつければよいか？

- ・日射熱取得率とはどのようなものか？

- ・日射遮へい係数とはどのようなものか？日射熱取得率との関係は？

- ・温室はどのような仕組みで暖かくなるのか？

※予習の段階に比べて、授業を聞き終わった段階では、何がわかりましたか？

5 太陽と日射 (教科書 pp. 69~82)

5 日射 (教科書 pp. 76~82)

日射の遮へい

・窓などの透明部分は、日射熱取得が大きい。

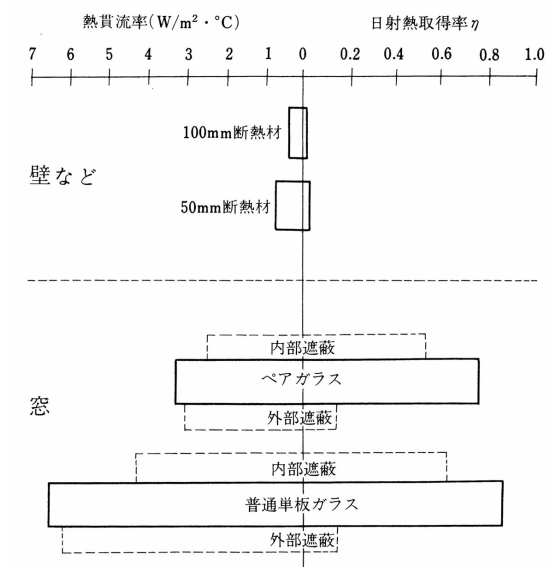


図 窓と壁の熱性能比較 (出典：参考文献 [1], p. 92)

→熱貫流率は、熱全体。一方、日射熱取得率は、日射のみに注目。

・窓面における日射遮蔽手法

→教科書 p. 81 の「③日除けの種類」の他に下記の図も参照。

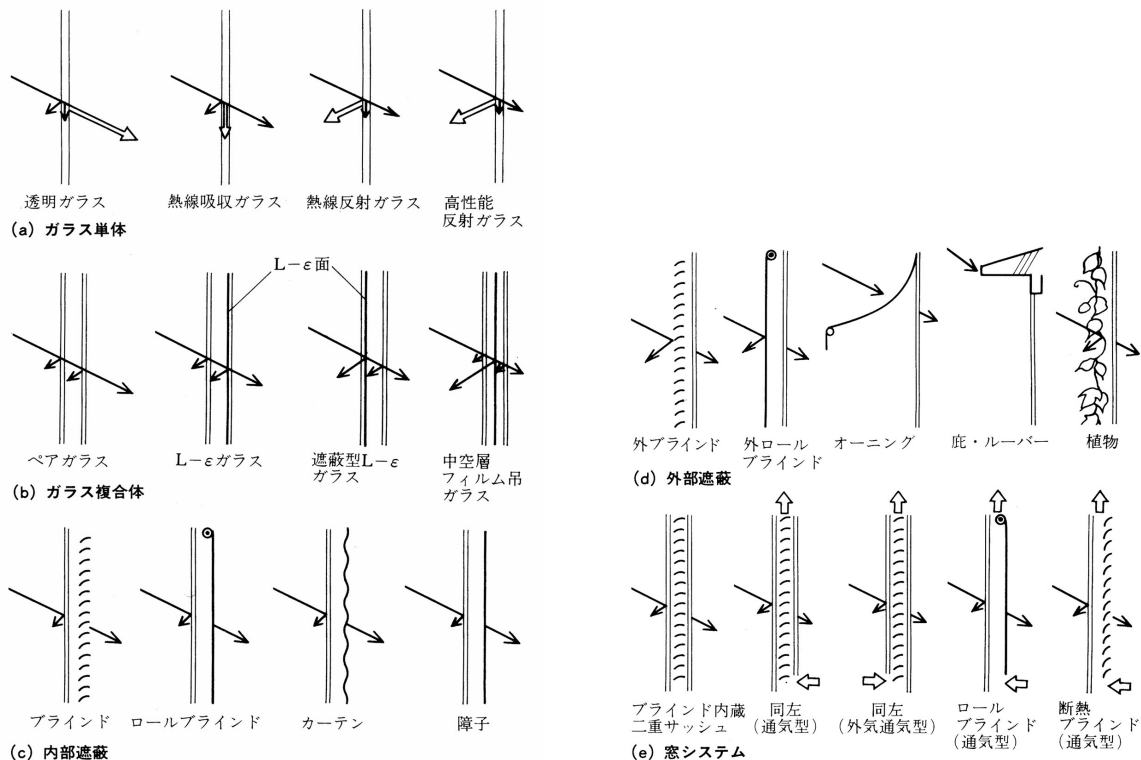


図 窓面における日射遮蔽手法 (出典：参考文献 [1], pp. 92~93)

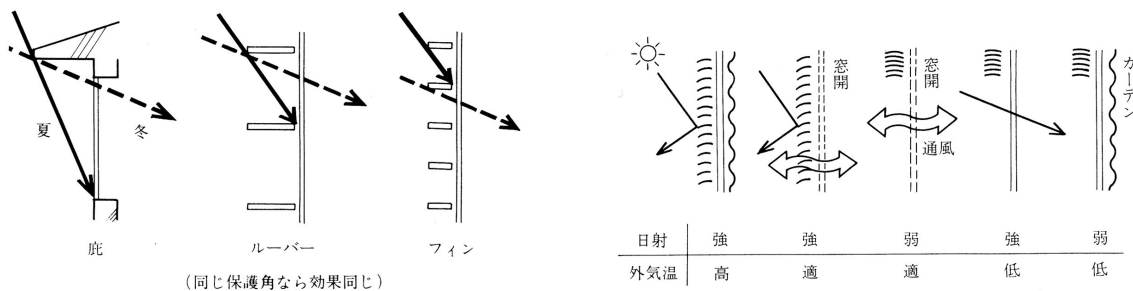


図 南面における日射の利用と遮蔽 (出典：参考文献 [1], p. 93)

図 種々の状況への対応 (出典：参考文献 [1], p. 93)

【参考文献】(順に、タイトル、編著者名、出版社、発行年月、価格、ISBN。[])内は熊本県立大学学術情報メディアセンター図書館所蔵情報)。

[1]『環境工学教科書 第二版』(環境工学教科書研究会編著、彰国社、2000年8月、¥3,500 + 税、ISBN: 4-395-00516-0) [開架2, 525.1||Ka 86, 0000275620, 0000308034]

学年：_____ 学籍番号：_____ 名前：_____

次の問のそれぞれの記述のうち、①～④で最も不適当なものはどれか。それぞれの理由もあわせて述べよ。

【1】

- ①窓ガラスの日射熱取得率は、ガラスに入射した日射量に対する、ガラスを透過した日射量の割合で表される。
- ②夏至の日に、終日日影となる部分を、永久日影と言う。
- ③熱線吸収板ガラスは、室内への日射熱の侵入を抑える効果があるが、冬季における断熱効果については、透明板ガラスと同程度である。
- ④日射を受ける外壁面に対する相当外気温度 (SAT) は、その面における日射吸収率のほか、風速の影響などを受ける。

答え：

[理由]

【2】

- ①日影図において日影時間の等しい点を結んだものを、等時間日影線という。
- ②日射遮へい係数は、3mm厚の普通透明ガラスの日射遮へい性能を基準として表した係数であり、その値が大きいくほど日射熱取得が小さくなる。
- ③南向き窓面に水平ルーバーを設けることは、日射・日照調整に有効である。
- ④一般的な透明板ガラスの分光透過率は、可視光線の波長域より赤外線波長域の方が小さい。

答え：

[理由]